

医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業
戦略的国際共同研究プログラム(SICORP)
日・英国共同研究（感染症） 事後評価結果

研究開発課題名	新規ツールを用いたクリプトコックス髄膜炎発症における T 細胞応答の解析
研究開発代表者	川上 和義
代表機関	東北大学

○評価委員会コメント

日英の国際連携により、クリプトコックス（真菌）感染症の免疫病態を解明するために、それぞれ独自に開発したトランスジェニックマウスを用いた研究を実施した。日本側は、肺内での真菌特異的 T 細胞応答の誘導・維持機構と、免疫不全に伴う T 細胞免疫機構の破綻機序を調べ、英国側は、肺と中枢神経系での真菌特異的 T 細胞の活性化と中枢神経系指向性の誘導機序を解析し、さらに中枢神経系での抗原提示機構についても調べた。両国研究者の役割が明確であり、相補的な解析で成果を得ていることは高く評価できる。本研究は真菌感染症の治療法や予防法の開発に向けて新しい方向性を示している。高齢者に真菌感染が多いことから、高齢化社会における重要な課題に取り組んでいるといえる。

研究成果は、共著書籍としてまとめられており、今後も論文発表や若手研究者の交流が期待される。一方で、若手研究者発表支援や英国側が来日してのセミナー開催について具体的な説明が乏しく、どのように実施したのか不明瞭である。